

■井上青龍 写真家。「釜ヶ崎」の撮影で名を遺した。

いのうせいりゅう

満州事変・1931=

高知県の山間部高岡で、米作とミカン栽培のほか紙漉きや養蚕もする農家井上愛・敏子の長男に生まれる。近くの四国霊場三十五番札所の寺の名にちなんで清龍と名付けられる。

国際連盟脱退1933= 2歳

妹が誕生。父も長男で、曾祖母・祖母・両親・父方の叔父と叔母それぞれ2人が一緒の大家族のなか、教育熱心な母年の近い下の叔父に可愛がられ、度々大げがもしながら、わがままに育ち、

二二六事件・1936= 5歳

弟が誕生。

日中戦争始・1937= 6歳

家の近くの町立小学校に入り、牛の飼葉を切る機械に巻き込まれて、左手の中指と薬指の第一関節から先を失い、後に、自ら'新宿でポン引きをしていた頃にヤクザと喧嘩して切られた'と言う一方、中耳炎になって左の耳がほとんど聞こえなくなることが、後に、厳しい師岩宮に殴られたからと噂されることになる。

大政翼賛会・1940= 9歳

日米開戦・1941=10歳

木登りは誰にも負けないが、ターザンの真似をして墜落骨折したり、戦争ごっこで怪我人続出、台風で増水した仁淀川の横断の挑戦を受けて決行し、九死に一生など、腕白の限りをつくしながら、高知市内の県立海南中学校に通ううち、父親が出征、

敗戦・1945=14歳

留守を守る母が病死。敗戦で、戦地から復員してきた父が、青年団に入り、機関誌(水鳴誌)に盛んに詩を寄稿する一方、共産党シンパにもなる。

新憲法施行・1947=16歳

中学4年の時に、後妻に迎えた継母となじめず、父との確執から、荒れた日々を過ごし、

極東裁判決・1948=17歳

教育改革で新制高知高校の2年に編入、

三大事件・1949=18歳

卒業の頃には、鎌を振り回すほど、関係は悪化、

独立回復・1951=20歳

案じた叔父が俳句結社で顔を合わせていた岩宮武二に相談し、自らの望みとは関係なく、大阪の写真家岩宮武二に入門するが、まもなく肋膜炎を患い、療養のため家に戻るも耐えられず、洞穴生活を始め、ヤギを連れて荒地を開墾、ヤギの乳が効いたのか1年ほどで回復し、大阪に戻ると、今度は師の岩宮が結核となって、米子で療養生活に入ったため、東京でアルバイト生活、その間、試験を受けてある劇団の俳優養成所に入るなど、方向定まらなかつたが、

メデー事件・1952=21歳

療養を終えた師岩宮が大阪に戻って来て、再び助手することになり、

TV放送始・1953=22歳

師岩宮がフォトコンテストで一躍注目を浴び、

自衛隊発足・1954=23歳

{株式会社岩宮フォトス}を設立して、一気に仕事が舞い込むようになると、土門拳の紹介による助手が採用され、その助手に岩宮が丁重に接するのが気に食わなく、以後、師に屈折した心を持つようになり、

55年体制始・1955=24歳

商業写真よりも報道写真をやりたいと、岩宮の助手を辞め、上京するが、再び貧苦に喘いで、ポン引きなどすることになり、警察沙汰やヤクザの世界に近づき、写真どころでなく、大阪に逃げ帰り、頭を下げて門下への復帰を願い、叔父の介添えもあって認められると、ようやく覚悟ができたのか、

なべ底不況・1957=26歳

*2年前に雑誌の仕事で偶然足を踏み入れ、心に引っ掛っていた釜ヶ崎の写真の撮り始め、没入、

インスタント・1958=27歳

釜ヶ崎を全国的に有名にした菊田一夫の芝居「がめつ奴」が始まり、ロングランに入るなか、

美智子妃・1959=28歳

岩宮の都合で、急遽その代役として、初めての写真展「人間百景～釜ヶ崎」を東京で開く。案内状で「がめつ奴」を批判、写真界では注目されなかつたが、東京の山谷で暴動が起ると、{文芸春秋}で取上げられ、

安保闘争・1960=29歳

*統一して釜ヶ崎でも暴動が起ると、大阪の{読売新聞}の記者とルポして夕刊に大きく掲載され、{カメラ芸術}に「人間百景～釜ヶ崎」が紹介されて新人賞、第5回{日本写真批評家協会}新人賞受賞に至る。釜ヶ崎で結成された全日自労分会「アンコ組合」の写真部引受け、賞金の一部を寄付、結婚直後にもかかわらずアパートに執行員らと呼ぶほど行動をともにするが、組合は幻のごとく消えてしまう。写真展「絶叫のあと」を開催。

タイタイ病始・1961=30歳

女子が誕生。釜ヶ崎取材で創価学会にも関心を持ち、岩宮にきた依頼の代理として、会長池田大作に写真の個人レッスン。西成署松原忍を中心に労働者も参加した文芸サークル{裸の会}に入って関係を保つが、

全国総合計画1962=31歳

テーマを在日朝鮮人に移す一方、大企業の広告パンフレットの仕事で金が入るようになり、

いざなぎ景気1966=35歳

男子が誕生。引越した近くに競馬場があって競馬狂いとなり、会誌{裸}に詩を最後に遠ざかる。

美濃部都知事1967=36歳

在日朝鮮人を撮った「帰国(北帰行)」で平凡社の太陽賞を狙うも失敗、以後、写真活動をしなくなる。

ドルショック・1971=40歳

愛人もできるなか、妻治子は耐え忍んでいたが、松原の定年退職で{裸の会}は解散。この年開催された{岩宮武二一門展}に「北帰行」を出品。俳句に没頭し、俳人赤尾兜子主宰する結社{渦}に入会、

日中国交回復1972=41歳

ついに、創価学会員となった妻は別居独立。俳誌{渦}の編集を担当し始め、浅間山荘事件を詠んだ句も。

石油ショック1973=42歳

大阪芸術大学芸術学部教授していた師匠の岩宮武二に呼び寄せられて、写真学科講師となり、

田中角栄逮捕1976=45歳

同大学助教授になると、結社{渦}からも離れ、

JALハイジャック・1977=46歳

釜ヶ崎をテーマにしたNHKの報道番組にゲスト出演、20年前の暴動を「人間宣言」であったと明言、

貿易摩擦始・1980=49歳

赤尾兜子が急逝し、妻恵似が{渦}を継承、

中曽根内閣・1982=51歳

改心し創価学会に入信し妻とも和解。釜ヶ崎住民の哀歎をうたう詩人東淵修と知合い、申し入れられて、

ジャンボ機墜落1985=54歳

*ようやく、60年代に撮った写真をまとめ、かつての全日自労釜ヶ崎分会の執行委員長司新一と詩人作井満との鼎談も収録した処女写真集「釜ヶ崎」として出版され、東淵との関係はひび割れるなか、

バブル始・1986=55歳

大阪中之島の中央公会堂の一室で開かれた出版記念会で生涯最良の時間を過すも、

竹下内閣・1987=56歳

同大学教授となったが、東淵に紹介されていた詩人で{海風社}を営む作井満の出身地南島に惹かれ、

リクルート事件・1988=57歳

奄美大島に通い撮影、{月刊南島}に連載されるうち、6度目の奄美行きで、高波にさらわれて没した。